

「馬上のクラーク博士像」の建立に向けて

第19号 クラーク会だより

1877年(明治10年)4月16日に、今の国指定史跡旧島松駅通所でクラーク博士が見送りの学生たちに『青年よ、大志を抱け(Boys, be ambitious)』の名言を残して別れた日を記念して、令和3年4月14日～18日の期間でエルフィンパークにおいて「別れの日記念パネル展」を開催しました。このパネル展で、星槎道都大学彫刻家梅田准教授に制作して頂いた馬上像の模型(マケット)を展示したところ、会員や市民の方々から沢山の激励や注文のご意見を頂きました。このご意見を活かし魅力ある馬上像の建立に向けて、新たに「馬上のクラーク博士」の絵画を制作することとし、星槎道都大学の画家安田教授に依頼しました。

クラーク博士がアメリカに帰国する際に別れを告げた場面を描いた資料はいくつかありますが、当会では函館出身の梁川剛一氏が描いたレリーフ「クラーク先生馬上の訓言」をモデルとすることとしました。

梁川剛一氏は、明治10年4月16日の札幌を出発する際に北海道開拓使本陣前で撮った見送りの一枚の集合写真を基にクラーク博士の服装や馬を正確に描いたと言われています。

完成した青銅のレリーフは縦1m81cm、横2m71cm、厚さ12cm、重さ1tもあります。梁川さんは、若者にクラーク精神を知ってもらおうと、同窓会を通じて北海道大学に寄贈し、現在はサークル会館に設置しております。(S56.9.20.読売新聞記事)

認定・特定非営利活動法人(認定NPO法人)
クラーク博士別れの地・久蔵の里普及促進会
理事長 金川 弘司

事務局

061-1277 北広島市大曲光4丁目1-2
菊川 昭夫

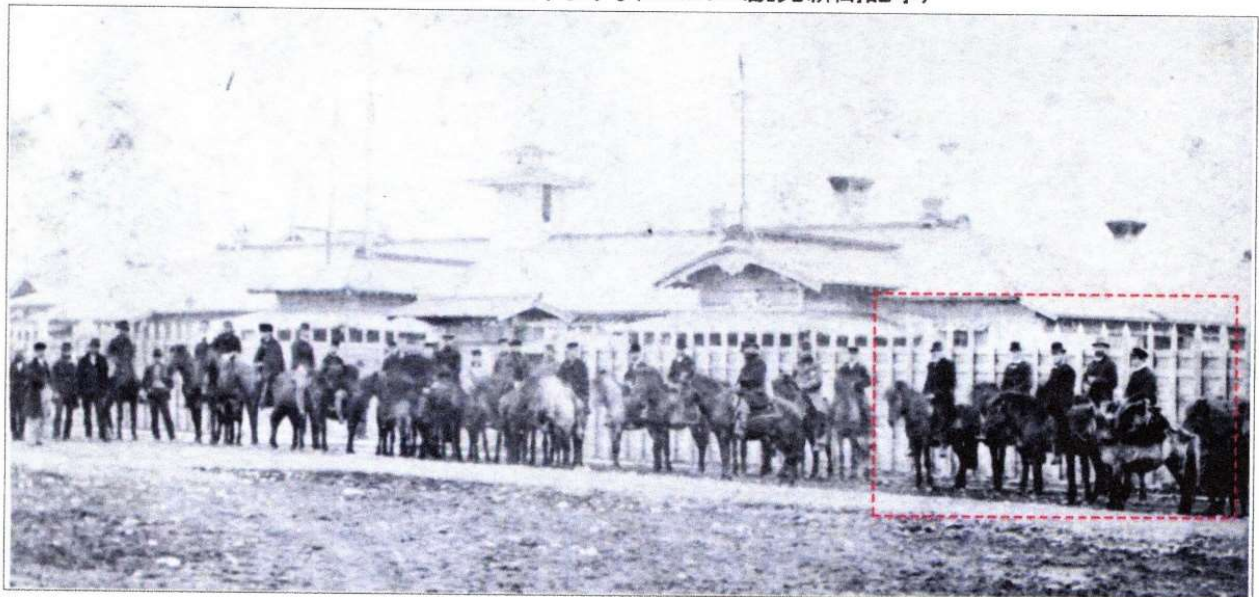
TEL/fax 011-377-1630

Mail kawasemi-ak@amber.plala.or.jp

HP <https://npo-clark.com/>



「クラーク先生馬上の訓言」 梁川剛一作(北大サークル会館)



北海道開拓使本陣前で見送りの風景(右から二人目がクラーク博士)